

米軍、豪・グアム態勢強化

海外展開見直し 中国へ対抗鮮明

米国防総省は29日、「グローバル・ポスチャ・レビュー」(GPR=地球規模の米軍態勢見直し)の概要を発表し、豪州やグアムの米軍施設を強化するなどと明らかにした。インド太平洋を「優先地域」と位置づけ、中国の脅威に対抗する姿勢を改めて鮮明にした。

▼の面=再配分に悩み

今回のGPRで示された「中国シフト」の方向性は、来年に発表される「国家防衛戦略」など今後の戦略文書にも反映される。作

性を理由として、GPRの詳細は公開されなかつた。

国防総省高官によると、GPRは印度太平洋を「優先地域」と位置づけ、「地域の同盟・友好国との協力を進め、中国からの軍事攻撃の可能性や北朝鮮からの脅威を抑止する」とし

て配備し、地上部隊の訓練も実施する。韓国に攻撃ヘリコプター部隊などを常駐させることも盛り込んだ。

中国外務省の趙立堅副報道局長は30日、「印度太平洋を軍事化しようとする企てだ」と批判した。中国の國防力の強化は自国の利益の保護のためで、霸権主義的な米国とは本質的に違つてゐる。具体的には、豪州やグアムなどで燃料や弾薬の貯蔵庫の建設、飛行場の改修といったインフラ整備を進める。豪州には戦闘機や爆撃機をローテーション

(高田正幸)